

健康診断の結果を生かすために

生活習慣病は、自覚症状がないまま進行し、症状が現れた時には重症になっていることが多いので、健康診断で精密検査・治療が必要となった方は、必ず病院を受診してください。

健康診断項目		検査の目的・結果の意味
肥満度 (BMI)		$BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$ BMI が 18.5 ~ 24.9 までを標準体重とし、25 以上を肥満としています。肥満は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を引き起こす要因になります。肥満傾向の人は、適度な運動とバランスの良い食事で減量に努めましょう。
血圧		140/90mmHg 未満を正常血圧としています。血圧は常に変動しており、その時の体調や緊張などによっても変化します。血圧が高めの人は、自宅でリラックスした状態で何度か測定し、それでも高ければ受診して下さい。塩分の制限や体重のコントロールも重要です。
尿検査	尿蛋白	陽性の場合、腎炎やその他の腎臓病が疑われます。疲れている時や激しい運動の後、発熱時などにも陽性になることがあります。
	尿潜血	陽性の場合、尿路（尿の通り道）から出血していることが考えられ、炎症や結石・腫瘍などが疑われます。
	尿糖	陽性の場合糖尿病が疑われます。糖尿病の詳しい検査が必要です。
血液一般	白血球	炎症性の疾患があると上昇します。微熱が続くなどの炎症性の症状があれば受診して下さい。
	赤血球・ヘモグロビン・ヘマトクリット	数値が少なければ貧血が疑われます。鉄分の多い食事をとり定期的に検査を受けましょう。貧血の原因を調べるために胃腸や婦人科の検査が必要な場合もあります。多ければ多血症等の病気が疑われます。
	血小板	数値が少ないと止血しにくいなどの症状があります。再検査や精密検査を受けて下さい。
肝臓	GOT・GPT・γ-GTP ALP・ZTT 総ビリルビン	高値の場合、肝臓病（肝炎、脂肪肝など）や胆道（胆汁の通り道）の障害が疑われます。血液の詳しい検査や腹部の超音波（エコー）検査などが必要です。γ-GTP は、アルコール性の肝障害でも上昇することがあります。アルコールは控えて下さい。
脾臓	血清アミラーゼ	高値の場合、すい臓の病気が疑われます。血液の詳しい検査や必要に応じて腹部の超音波（エコー）検査・CT 検査などをおこないます。
腎臓	クレアチニン eGFR・尿酸	腎臓に障害があると上昇します。上昇している場合は、再検査や精密検査を受けてください。尿酸は、高い状態が続くと痛風になります。アルコールのとりすぎや過食を避けましょう。
脂質	総コレステロール	総コレステロールや中性脂肪が高い状態が続くと、動脈硬化が促進します。HDL-C（善玉コレステロール）は、低いと動脈硬化が促進します。LDL-C（悪玉コレステロール）は、高いと動脈硬化が促進します。異常があった場合は、バランスの良い食事と適度な運動をし、定期的に検査を受けましょう。
	中性脂肪	
	HDL-C・LDL-C	
糖尿病	血糖・HbA1c	高い場合は、糖尿病の可能性があります。血糖値は、食後に採血をすると高くなる場合があります。基準値は空腹の状態の目安です。HbA1c は、検査前約 1 ヶ月間の血糖の平均値をみる検査です。 ※当院の健診では HbA1c の基準値として NGSP を使用
ペプシノーゲン		胃粘膜の萎縮を調べます。
心電図		不整脈や心肥大、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）などがないか検査します。異常があった場合は、心臓の超音波（エコー）検査や 24 時間心電図検査などで詳しく検査します。
胸部レントゲン		肺炎や肺結核、肺がん、その他の慢性疾患がないか検査します。異常があった場合は、肺の CT 検査などで詳しく検査します。また、心臓の大きさや形もわかります。
眼底検査		目の奥の血管の写真をとり、動脈硬化などの血管の変化がないかを調べます。
便潜血検査		陽性の場合、便に血液が混じっているので大腸の詳しい検査を受けてください。

◎オプション検査（有料）

オプション名	検査の目的・結果の意味	料金（税込）
PSA	前立腺検査：前立腺を調べる検査	1,650円
CEA	腫瘍マーカー：全身のがんを調べる検査	1,650円
CA19-9	腫瘍マーカー：主に胆道・脾臓がんを調べる検査	1,650円
HBs 抗原検査	B 型肝炎ウイルス感染の有無を調べます。	2,200円
HCV 抗体検査	C 型肝炎肝炎に現在感染していたり過去に感染があったかどうかを調べます。初めて陽性といわれた場合は、活動性のものかどうかを調べる詳しい検査が必要です。肝炎を発症していない無症候性キャリアの場合も定期的な検査が必要です。	